

科目名	ファシリテーション特論	担当教員	三田地 真実
	教員の免許状取得のための選択科目	(担当形態)	(単独)
科目群	専門科目C	単位数	2単位
<p>【授業概要】</p> <p>現在の教育現場においては、特別支援学校のみならず、小学校・中学校・高等学校においても、様々な発達に特性のある児童生徒への対応が喫緊の課題となっている。これまでのように全ての課題・問題を担任で教員が一人で解決するのではなく、平成19年度からは通常学級に在籍する児童生徒への個別ニーズに基づいたアプローチが「特別支援教育」としても制度的にも導入され、この制度を機能させるために、①特別支援教育コーディネーターの任命、②校内委員会の設置、③個別の教育支援計画の策定という三本柱が提案されている。これらの本質は、様々な課題解決を児童生徒本人、保護者、校内外の関係者、及び関連諸機関と連携して図ることであり、そのためには「話し合いの場」が必須となっている。しかし実際にはこの話し合いがうまく機能しておらず、そのための技術として「ファシリテーション」という場づくりの技法が、特に連携の中心的役割を司る「特別支援コーディネーター」には必須である。本特論においては、現在の教育的課題のみならず、広く校内外の問題解決のために様々な立場の人が集って話し合いを行っていくために必須の「ファシリテーション」の技術について、具体的な場面を設定しながら、「意味ある話し合い」、言い換えれば「機能する話し合い」をコーディネートできるための実践的な力を身に付け、他の教員への理解啓発をも実行できることを狙いとする。</p>			
<p>【授業の到達目標】</p> <p>本特論を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 特別支援教育の文脈において、なぜ話し合いの技術としてのファシリテーションが必要かについて具体的な事例を通して説明することができる ② 話し合いを意味あるものにするための技法としてのファシリテーションについて、広くそもそもの意義が理解できる ③ 話し合いの基礎となる、コミュニケーションの基本を体得できる ④ 場づくりの基本的な技法を獲得できる ⑤ 実際に個別の教育支援計画の立案をワークショップ型話し合いとして企画・実施できる 			
<p>【授業計画】 講義と演習の組み合わせで実施する。</p> <p>第1回 オリエンテーション（特別支援教育の文脈における、共生社会の構築とファシリテーションの必要性）</p> <p>第2回 特別支援教育コーディネーターが直面する課題とファシリテーションが適用できる場面について（コーディネーターに必須のスキルとしてのファシリテーションの意義）</p> <p>第3回 特別支援教育コーディネーターが話し合いを行う際に留意すべき、ファシリテーターのマインド面について</p> <p>第4回 特別支援教育の事例を通して学ぶ、ファシリテーションの3つの段階（事前準備・本番・フォローアップ）の概要</p> <p>第5回 ファシリテーションを活かすためのコミュニケーション基礎（非言語的な側面）</p> <p>第6回 ファシリテーションを活かすためのコミュニケーション基礎（言語的な側面）</p> <p>第7回 特別支援教育の事例を通して学ぶ、ファシリテーション事前準備の段階（空間のデザイン、参加者の概要など）</p> <p>第8回 特別支援教育の事例を通して学ぶ、ファシリテーション事前準備の段階（プログラムデザインを中心に）</p> <p>第9回 特別支援教育の事例を通して学ぶ、ファシリテーション本番の段階（アイスブレイク、グループワークのノウハウなど）</p> <p>第10回 特別支援教育の事例を通して学ぶ、ファシリテーション・フォローアップの段階（PDCA サイクルなど）</p>			

<p>第 11 回 事例紹介ワークショップ・プレゼンテーション（受講生によるプレゼンテーション） －事前準備に焦点を当てて－</p> <p>第 12 回 事例紹介ワークショップ・プレゼンテーションのふり返り（事前準備に焦点を当てて）</p> <p>第 13 回 事例紹介ワークショップ・プレゼンテーション（受講生によるプレゼンテーション） －本番とフォローアップに焦点を当てて－</p> <p>第 14 回 事例紹介ワークショップ・プレゼンテーションのふり返り（本番とフォローアップに焦点を当てて）</p> <p>第 15 回 授業のまとめ（ファシリテーションを応用できるその他の場面について考察する、及び、授業自体のフィードバック・ワークショップ）</p> <p>科目修得試験</p>
<p>【スクーリング】 スクーリング（1 日）の中では受講学生に個別の教育支援計画の立案とその内容についてのワークショップ・プレゼンテーションを行う（授業計画の 11、12、13、14、15 回の部分）</p>
<p>【評価方法】 評価については、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合した評価となる。</p>
<p>【教科書】 三田地真実『ファシリテーター行動指南書』（ナカニシヤ出版、2013） 三田地真実『特別支援教育連携づくりファシリテーション』（金子書房、2007）</p>
<p>【参考図書】 中野民夫・三田地真実編著（2016）『ファシリテーションで大学が変わる-アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには【大学編】』、ナカニシヤ出版 中野民夫・三田地真実編著（印刷準備中）『ファシリテーションで学校が変わる-先生はファシリテーター【小中学校編】』、ナカニシヤ出版 Justice, T. The Facilitator' s Fieldbook. (3rd Ed.) (American Management Association: New York., 2012) 亀田達也『合議の知を求めて～グループの意思決定』（共立出版、1997） 『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』文部科学省（2017）</p>